

評価結果ダイジェスト

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 評価結果ダイジェスト

評価結果ダイジェスト

▼全体の評価講評 ▼サービス分析結果 ▼利用者調査結果 ▼事業者のコメント

平成18年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	藍工房
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No.H0202105 修了者No.H0601012 修了者No.H0402001
評価実施期間	2006年10月6日～2007年3月19日

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

全体の評価講評

▶ [詳細はこちら](#)

💡特に良いと思う点

- 芸術性の高い工芸作品の創作と販売で、社会参加と経済的自立を目指す
- さまざまな障害を越え、協力し合い取り組む作品制作
- 藍工房グループで総合的な地域生活支援を実施

✓さらなる改善が望まれる点

- プライバシー保全に向けた設備改善を
- 新体系移行に向けた事業計画の作成
- 福祉事業活動収入の改善で職員の処遇の安定を

[このページの一番上へ](#)

サービス分析結果

▶ [詳細はこちら](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画などに基づいて地域生活支援を行っている	A+
【講評】 続きを見る	
<ul style="list-style-type: none"> • 藍工房は日本伝統工芸の技術を習得し、受注製品の製作や利用者自身のそれぞれのオリジ... • 社会福祉法人藍は公益事業として精神障害者共同作業訓練事業として「藍カフェ&ギャラ... • 広報誌「藍の風」はグループ全体の情報を提供しているが、最近は特に「障害者自立支援... 	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A+
【講評】 続きを見る	
<ul style="list-style-type: none"> • 藍工房は藍染めなどを製作して販売している。その製品は伝統工芸品として質の高いもの... • 利用者の作成した製品が販売できるとその売上の中から、原則材料費など30%を差し引... • 工房における作業の他に誕生会、クリスマス会、新年会、一泊旅行などのレクリエーショ... 	

3. おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

A

【講評】 [続きを見る](#)

- ・ 食事の提供は週3回、月、水、金の昼食を希望者に1食130円(世田谷区の補助270...
- ・ 食事の提供に係る衛生管理については、従事者等の衛生管理点検表、調理施設の点検表が...

4. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

A

【講評】 [続きを見る](#)

- ・ 利用者の健康管理については原則として自己管理であるが、年1回の健康診断実施して...
- ・ 顧問医が置かれていて、2ヶ月に1回スタッフの勉強会が実施されている。この勉強会に...

5. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

B

【講評】 [続きを見る](#)

- ・ 工房における作業の他に誕生会、クリスマス会、新年会、餅つき大会、お花見などの季節...
- ・ 作業場は開放的であるがスペースが十分でなく、決して作業に十分な環境とは言えない。...
- ・ メンバーによるミーティングが毎月1回開催され、日直当番や喫煙の決まりなど工房にお...

6. 施設と家族等との交流・連携を図っている

A

【講評】 [続きを見る](#)

- ・ 精神障害者の利用者は基本的に一人の成人であり、利用契約も本人とされる。藍工房の現...
- ・ 藍工房では季刊の「藍の風」や月刊の「精神部の便り」を発行して、工房に状況や利用者...

7. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

A

【講評】 [続きを見る](#)

- ・ 世田谷区は伝統的に福祉の地域ネットワークの活動が活発で地域精神保健福祉活動推進連...

評点の内容
▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

利用者調査結果






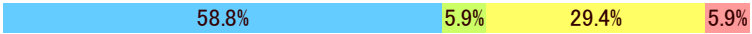

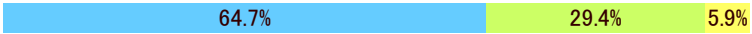




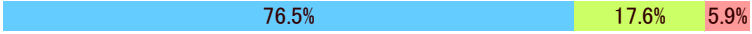
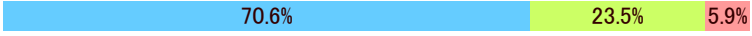


▶ [詳細はこちら](#)

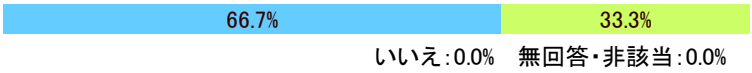
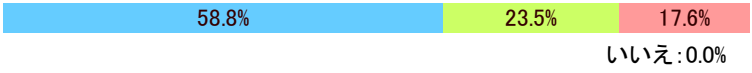

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

有効回答者数/利用者総数
17/22

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1.施設の中は安全に動けるようになっていますか	76.5%	5.9%	17.6%	無回答・非該当:0.0%
2.施設は清潔で快適ですか	82.4%	17.6%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
3.あなたがやってみたいと思うような仕事や活動内容になっていますか	82.4%	17.6%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
4.施設に来ることで、安定して毎日が過ごせるようになりましたか	70.6%	23.5%	5.9%	いいえ:0.0%

5.就労意欲が湧いてくるような活動や支援がありますか	 <p>52.9% 29.4% 5.9% 11.8%</p>
6.仲間と交流できるような場所や機会などがありますか	 <p>82.4% 11.8% 5.9%</p> <p>無回答・非該当:0.0%</p>
7.仕事は楽しいですか	 <p>88.2% 11.8%</p> <p>いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%</p>
8.工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか	 <p>88.2% 11.8%</p> <p>どちらともいえない:0.0% 無回答・非該当:0.0%</p>
9.施設の職員に気軽に相談できますか	 <p>82.4% 11.8% 5.9%</p> <p>無回答・非該当:0.0%</p>
10.施設職員以外の人にも相談できることの案内がありますか(通院先・入所先の職員や区市・苦情受付の第三者委員など)	 <p>58.8% 5.9% 29.4% 5.9%</p>
11.職員は他の人に知られたくないあなたの秘密を守るなど、プライバシーを守ってくれますか	 <p>70.6% 17.6% 11.8%</p> <p>いいえ:0.0%</p>
12.あなたは施設で人権が尊重されていると思いますか	 <p>64.7% 29.4% 5.9%</p> <p>無回答・非該当:0.0%</p>
13.職員はあなたの決めたことを大事にしてくれますか	 <p>88.2% 5.9% 5.9%</p> <p>いいえ:0.0%</p>
14.職員はいつも同じように接してくれていますか	 <p>76.5% 23.5%</p> <p>いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%</p>
15.利用者同士がうまくいかないときに、職員は間に立って対応してくれますか	 <p>52.9% 17.6% 11.8% 17.6%</p>
16.施設では、あなたの日常生活への気遣いがありますか	 <p>58.8% 23.5% 5.9% 11.8%</p>
17.あなたの目標又は計画をつくる時、職員はあなたの希望や意見を聞いてくれましたか	 <p>76.5% 17.6% 5.9%</p> <p>いいえ:0.0%</p>
18.あなたの目標・計画、状態に合わせた手助けがありますか	 <p>70.6% 23.5% 5.9%</p> <p>いいえ:0.0%</p>
19.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか	 <p>100.0%</p> <p>どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%</p>
20.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説	 <p>100.0%</p> <p>どちらともいえない:0.0% いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%</p>

明、揭示など)がありましたか	
21.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか	 <p>66.7% 33.3%</p> <p>いいえ:0.0% 無回答・非該当:0.0%</p>
22.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか	 <p>58.8% 23.5% 17.6%</p> <p>いいえ:0.0%</p>
23.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか	 <p>64.7% 23.5% 5.9% 5.9%</p>

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

事業者のコメント

* 以下の項目は事業者によって、自ら更新される情報です。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > 全体の評価講評

全体の評価講評

▼全体の評価講評 ▼コメント

平成18年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	藍工房
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
評価者	修了者No.H0202105 修了者No.H0601012 修了者No.H0402001
評価実施期間	2006年10月6日～2007年3月19日

全体の評価講評

💡特に良いと思う点

• 芸術性の高い工芸作品の創作と販売で、社会参加と経済的自立を目指す

藍工房の作品は工芸品としての評価が高い。1985年米国有名音楽ホールの舞台衣装の製作に始まり、1996年日本文化顕彰機関の国際芸術文化賞受賞、2002年公共放送機関主催日本キルト大賞グループキルト部門第1位等受賞。また2004年から毎年「藍工房のすてきな仲間たち世界展」でパリ、ロンドン、トルコ、オーストラリアと世界巡回が行われ利用者も参加している。売上から材料費等30%を差し引き70%を工賃として還元している。作者と呼ばれる利用者は、バザーやお祭り、展示会に自らも販売に参加することで、制作意欲を高めている。

• さまざまな障害を越え、協力し合い取り組む作品制作

藍工房はさまざまな障害を持つものと、スタッフ・ボランティアが協力し、お互いを理解しながら能力開発をして自立性・社会性を育てていくという理念の下運営されている。知的障害や精神障害をもつものが同じ作業所の中で、それぞれ個々にあった作品作りが一同となった行われている。ただ、作業所が藍染め、刺し子、織物、組み紐、陶芸など作業が分散し、また担当の作業指導員も作業によってそれぞれ異なっている。このため、社会復帰指導員と作業指導員が協同し利用者の情報を共有し、支援し見守る体制が確立されている。

• 藍工房グループで総合的な地域生活支援を実施

社会福祉法人藍は公益事業として精神障害者共同作業訓練事業として「藍カフェ&ギャラリー」を運営し、回復途上にある在宅者であって、長期的訓練が必要な人を対象に生活指導や作業訓練等の社会適応訓練を行っている。また、別途、NPO法人藍工房ハウスを持ち精神障害者のグループホームを運営している。現在は藍工房通所者の1名がこのグループホームを利用している。その他、精神障害者イブニングケア事業も毎週金・土曜日実施して夕方の居場所や交流の場の提供し、職員が随時相談にも応じている。

✓さらなる改善が望まれる点

• プライバシー保全に向けた設備改善を

藍工房の作業所は、精神障害者の精神部のみならず、知的障害者や身体障害者の障害部も一緒に活動しておりスペースが手一杯である。このため藍染めなどの作業所はスペースの余裕がなく相談室も設けられない状態である。障害者は人間関係に繊細であり、これらの相談支援は非常に重要である。プライバシーが保たれた相談室の設置が期待される。また利用者の個人情報の多くは紙ベースで保管されている。保管場所や方法は、広さや位置関係からやもうえないが情報管理に不安がある。個人情報保護の観点からみても、環境整備が望まれる。

• 新体系移行に向けた事業計画の作成

障害者自立支援法施行に伴い、小規模通所授産施設は形態変更(就労継続支援事業B型非雇用)の予定がある。今後の動向をふまえ、利用者増加に伴うサービス提供能力の確保、工賃の問題を含め中长期計画の立案が急がれる。藍工房は工芸品の製作から販売まで行っている。利用者の工賃アップ、販路の拡大、受注生産の確保など生産性の向上と工芸作品としての芸術性の維持をどう調和させるか困難な課題を解決しなければならない。

● 福祉事業活動収入の改善で職員の処遇の安定を

藍工房にはボランティアをはじめとして、海外事業における関係者や行政に関わる人ともボランティア的に協力していただく風土ができています。藍染めなどを縫製する仕事を有償ボランティアが行っていて、このため常勤職員は毎朝ミーティングを実施して、メンバー・スタッフ・有償ボランティアが協力し合い一体感をもって製作活動が行えるよう調整している。このような組織風土の中で、職員に対する報酬が抑えられてきたこともあろう。今後、新制度に移行するにあたって、職員の処遇など人事制度の見直しが必要となろう。

[このページの一番上へ](#)

コメント

事前に事業所と評価の手法及び日程等に関して詳細な打合せを行い、一連の日程を計画した。とくに利用者のアンケート調査においてはプライバシーの面を考慮できるよう、施設側と十分な話し合いを行った。また、授産作業を見学する際にも利用者の活動の妨げにならないよう、スケジュールを調整した。家族に対しては説明会を行なうとともに、利用者調査を捕捉するためのアンケートを依頼した。職員においても定められた分析シート以外に個別ヒアリングを行った。分析シートは鍵付ボックスを設置して回収した。

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [組織マネジメント分析結果](#)

組織マネジメント分析結果

▼リーダーシップと意思決定 ▼経営における社会的責任 ▼利用者意向や地域・事業環境の把握と活用
▼計画の策定と着実な実行 ▼職員と組織の能力向上 ▼情報の保護・共有 ▼カテゴリ1～7に関する活動成果

平成18年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	藍工房
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2006年10月31日～2007年3月19日

リーダーシップと意思決定

1. 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	評点
1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している	A
2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	A
3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	A
【講評】 詳細はこちら	
<ul style="list-style-type: none"> 藍工房では非営利組織として、1983年の創設以来、いろいろな障害を持つ人たちとス... 藍工房では職員が経営層と話し合う機会が多く、理事会や評議会等、重要な会議には、職... 	

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

経営における社会的責任

1. 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	評点
1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	A
2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている	A
3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている	A
2. 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	評点
1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある	A
2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	A
3. 地域の関係機関との連携を図っている	A
【講評】 詳細はこちら	
<ul style="list-style-type: none"> 藍工房には一般ボランティアをはじめとして、行政に関わる人にボランティア的に協力し... 地元の中学高校生の職場体験の場として藍工房の染め場を提供したり、実習生の受け入れ... 広報誌「藍の風」を年4回作成し、利用者家族会・OB会・関連事業所に毎回100部ほ... 	

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1. 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	評点
1. 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	A
2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	A
3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	A

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 藍工房は施設内においてさまざまな障害をもつものが協力しあって作業をしている。どの...
- ・ 世田谷区の大小7箇所の授産施設によって構成される世田谷区精神障害者通所授産施設連...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

計画の策定と着実な実行

1. 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	評点
1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している	A
2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している	B
3. 着実な計画の実行に取り組んでいる	A

2. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 計画の策定にあたっては職員も参加する年4回の理事会や評議員会において、施設の事業...
- ・ 喫煙については3階ベランダの喫煙所で携帯灰皿を必ず持参してもらうようにするなど火...
- ・ 施設外の環境で若林踏み切りに事故防止遮断機設置を電鉄会社に申し立てた。①利用者作...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

職員と組織の能力向上

1. 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	評点
1. 事業所にとって必要な人材構成にしている	A
2. 職員の質の向上に取り組んでいる	B

2. 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

【講評】 [詳細はこちら](#)

- ・ 職員個人の業務や能力に応じた育成計画は、意向や意見が伝統的に口頭などで伝達される...
- ・ 職員研修について、施設内では、入社時に理念・方針に沿った新人研修が理事長よりなさ...
- ・ 賃金規定の中で基本給は能力、経験、技術及び作業内容などを勘案して各人ごとに決定す...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

情報の保護・共有

1. 情報の保護・共有に取り組んでいる	評点
1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	B
2. 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	B

【講評】 [詳細はこちら](#)

- 経理、授産会計、人事情報など経営情報はパソコンで管理されているが、情報・データな...
- 職員やボランティア等も含め、入社時に、個人情報の保護についての説明を文章にて周知...

評点の内容
▶ [詳細はこちら](#)

[このページの一番上へ](#)

カテゴリー1～7に関する活動成果

1. 前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
● 障害者自立支援法の流動的な制度の流れの中で、限られた現在の施設環境において、利用...	
2. 前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	B
【改善の成果】 詳細はこちら	
● 世田谷区の大小7箇所の授産施設によって構成される世田谷区精神障害者通所授産施設連...	
3. 前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
● 売上のアップを目指すため、品質の向上と売れ筋製品の安定的供給と受注製品の製作など...	
4. 前年度と比べ、事業所の財政面において向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している	A
【改善の成果】 詳細はこちら	
● 授産事業については、17年度予算305万円に対して、376万円の決算を得ることが...	
5. 前年度と比べ、利用者の意向や苦情対応の面で向上している	評点
1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している	B
【改善の成果】 詳細はこちら	
● 障害者自立支援法に関わっての情報収集を外部研修や勉強会にて行い、前年度同様、藍の...	
【講評】 詳細はこちら	
● 障害者自立支援法の流動的な制度の流れの中で、限られた現在の施設環境において、利用...	
● 売上のアップを目指すため、品質の向上と売れ筋製品の安定的供給と受注製品の製作など...	
● 世田谷区の大小7箇所の授産施設によって構成される授産施設連絡協議会や、世田谷地域...	
	評点の内容 ▶ 詳細はこちら

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > サービス分析結果

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

サービス分析結果

▼サービス提供のプロセス項目 ▼サービスの実施項目


平成18年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	藍工房
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
事業評価実施期間	2006年10月31日～2007年3月19日

サービス提供のプロセス項目

サービス情報の提供	評点
1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> 藍工房の情報はホームページ、パンフレット、広報誌「藍の風」などにより入手すること... 世田谷区の「障害者支援情報センター」の作業所見学ツアーが月に1回実施されていて、... 見学に際しては開所日、作業内容、一日のスケジュールなど工房の概要が説明される。ま... 	<p>評点の内容 ▶ 詳細はこちら</p>
サービスの開始・終了時の対応	評点
1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている	A
2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> 仮入所の登録後、入所の空きができると、登録順に保健師を通じて仮入所の意思の確認が... 仮入所は通常1～6ヶ月程度の作業を実施して、週2回以上の通所が可能になると、この... 本人の事情等により退所となったとき、本人の希望により藍工房のOBとして登録ができ... 	<p>評点の内容 ▶ 詳細はこちら</p>
個別状況に応じた計画策定・記録	評点
1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している	B
2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している	A
3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している	B
4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	A+
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> 入所時には入所申込書、入所時のサマリー、保健師の紹介状、主治医の利用希望紹介書な... 工房内における人間関係や生活支援などについては社会復帰指導員の個別相談援助となっ... 作業所が藍染め、刺し子、織物、陶芸など作業が分散し、また担当の作業指導員も作業に... 	<p>評点の内容 ▶ 詳細はこちら</p>
プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	評点
1. 利用者のプライバシー保護を徹底している	B
2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者のプライバシーの保護については、就業規則、職員の心得などに規定されている。... 工房は利用者が自主的に自由に工芸品を創作するのが原則であるが最近では販路も広がり受... 	<p>評点の内容 ▶ 詳細はこちら</p>

事業所業務の標準化	評点
1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	B
2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	B
3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 藍工場の伝統工芸品の製作は伝承された「ものづくり」の技術指導の下、手作りで、基本... ● パザール、作品の展覧会、講演会、チャリティコンサートなどの催事は多い。このため、こ... ● 職員の研修では公的精神保健機関における精神障害者の援助技術や家族支援の研修、そ... 	

[このページの一番上へ](#)

サービスの実施項目

サービスの実施	評点
1. 個別の支援計画などに基づいて地域生活支援を行っている	A+
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 藍工場は日本伝統工芸の技術を習得し、受注製品の製作や利用者自身のそれぞれのオリジ... ● 社会福祉法人藍は公益事業として精神障害者共同作業訓練事業として「藍カフェ&ギャラ... ● 広報誌「藍の風」はグループ全体の情報を提供しているが、最近では特に「障害者自立支援... 	
2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている	A+
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 藍工場は藍染めなどを製作して販売している。その製品は伝統工芸品として質の高いもの... ● 利用者の作成した製品が販売できるとその売上の中から、原則材料費など30%を差し引... ● 工房における作業の他に誕生会、クリスマス会、新年会、一泊旅行などのレクリエーショ... 	
3. おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食事の提供は週3回、月、水、金の昼食を希望者に1食130円(世田谷区の補助270... ● 食事の提供に係る衛生管理については、従事者等の衛生管理点検表、調理施設の点検表... 	
4. 利用者の健康を維持するための支援を行っている	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の健康管理については原則として自己管理であるが、年1回の健康診断実施してい... ● 顧問医が置かれていて、2ヶ月に1回スタッフの勉強会が実施されている。この勉強会に... 	
5. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている	B
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 工房における作業の他に誕生会、クリスマス会、新年会、餅つき大会、お花見などの季節... ● 作業場は開放的であるがスペースが十分でなく、決して作業に十分な環境とは言えない。... ● メンバーによるミーティングが毎月1回開催され、日直当番や喫煙の決まりなど工房にお... 	
6. 施設と家族等との交流・連携を図っている	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 精神障害者の利用者は基本的に一人の成人であり、利用契約も本人とされる。藍工場の現... ● 藍工場では季刊の「藍の風」や月刊の「精神部の便り」を発行して、工房に状況や利用者... 	
7. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている	A
<p>【講評】詳細はこちら</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 世田谷区は伝統的に福祉の地域ネットワークの活動が活発で地域精神保健福祉活動推進... 	

評点の内容
▶ 詳細はこちらから

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 [\(財\)東京都高齢者研究・福祉振興財団](#)
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

[評点の見方](#)

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [利用者調査結果](#)

利用者調査結果

▼調査概要 ▼調査結果全体のコメント ▼調査結果

平成18年度

精神障害者小規模通所授産施設

事業所名称	藍工房
評価機関名称	特定非営利活動法人 NPO人材開発機構
利用者調査実施期間	2006年10月31日～2007年1月26日

調査概要

- **調査対象**: 藍工房の利用者(登録者)22名全員を調査対象とした。
- **調査方法**: 利用者アンケートにおいては、各設問ごとに意見や要望が記載できるように欄を設け、説明書を含めた一式を施設から手渡してもらった。アンケートの回収はプライバシーを考慮し、後納郵便の封筒で直接評価機関に送付できるようにして回収率の向上を図った。
- 利用者総数: 22人
- 共通評価項目による調査対象者数: 22人
- 共通評価項目による調査の有効回答者数: 17人
- 利用者総数に対する回答者割合(%): 77.3%
- 調査項目: [共通評価項目](#)

[このページの一番上へ](#)

調査結果全体のコメント

利用者アンケートにおける総合的満足度は、「満足」「どちらかといえば満足」をあわせると、全体の76%になっている。「仕事は楽しいですか」「職員はあなたの決めたことを大事にしてくれますか」という項目については9割近くの方が「はい」と回答しており、利用者の能力や技術に応じた個人ごとの支援や指導が進んでいる様子がうかがえる。一方で、「施設職員以外の人にも相談できることのご案内がありますか」で5名の方が「いいえ」という回答があった。苦情解決の実施規定の中に第三者委員の位置づけは明確にされているものの、利用者の中にはいまだ理解されていない方もいるようである。各設問ごとに設けたコメント欄には、共通して作業のことが多く述べられていた。「家庭的な雰囲気のなかで伝統工芸品の技術習得ができ、生活に張りが出てきました」「お互いに思いやりの気持ちを持ち、製作ができる場所だと思うなど、藍工房の思いの実現が図られている様子であった。施設面の要望等もいくつか寄せられているが、現状の環境でどこまで吸収できるかは今後の課題となっている。

[このページの一番上へ](#)

調査結果

※読み上げソフトをご利用のかたへ
パーセンテージの読みあげは「はい」「どちらともいえない」「いいえ」「無回答」の順番で読み上げられます。

■ はい ■ どちらともいえない ■ いいえ ■ 無回答・非該当

1.施設の中は安全に動けるようになっていますか	76.5%	5.9%	17.6%	無回答・非該当:0.0%
2.施設は清潔で快適ですか	82.4%	17.6%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
3.あなたがやってみたいと思うような仕事や活動内容になっていますか	82.4%	17.6%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
4.施設に来ることで、安定して毎日が過ごせるようになりましたか	70.6%	23.5%	5.9%	いいえ:0.0%
5.就労意欲が湧いてくるような活動や支援がありますか	52.9%	29.4%	5.9%	11.8%
6.仲間と交流できるような場所や機会などがありますか	82.4%	11.8%	5.9%	無回答・非該当:0.0%
7.仕事は楽しいですか	88.2%	11.8%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
8.工賃・給料の支払いのしくみは、わかりやすく説明されていますか	88.2%	11.8%	どちらともいえない:0.0%	無回答・非該当:0.0%
9.施設の職員に気軽に相談できますか	82.4%	11.8%	5.9%	無回答・非該当:0.0%
10.施設職員以外の人にも相談できることの案内がありますか(通院先・入所先の職員や区市・苦情受付の第三者委員など)	58.8%	5.9%	29.4%	5.9%
11.職員は他の人に知られたくないあなたの秘密を守るなど、プライバシーを守ってくれますか	70.6%	17.6%	11.8%	いいえ:0.0%
12.あなたは施設で人権が尊重されていると思いますか	64.7%	29.4%	5.9%	無回答・非該当:0.0%
13.職員はあなたの決めたことを大事にしてくれますか	88.2%	5.9%	5.9%	いいえ:0.0%
14.職員はいつも同じように接してくれていますか	76.5%	23.5%	いいえ:0.0%	無回答・非該当:0.0%
15.利用者同士がうまくいかないときに、職員は間に立って対応してくれますか	52.9%	17.6%	11.8%	17.6%
16.施設では、あなたの日常生活への気遣いがありますか	58.8%	23.5%	5.9%	11.8%
17.あなたの目標又は計画をつくる時、職員はあなたの希望や意見を聞いてくれましたか	76.5%	17.6%	5.9%	いいえ:0.0%

18.あなたの目標・計画、状態に合わせた手助けがありますか	<p>70.6% 23.5% 5.9%</p> <p>はい: 70.6% どちらともいえない: 23.5% いいえ: 5.9% 無回答・非該当: 0.0%</p>
19.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】利用する前に、施設での生活や支援内容など、知りたいことについてわかりやすい説明がありましたか	<p>100.0%</p> <p>はい: 100.0% どちらともいえない: 0.0% いいえ: 0.0% 無回答・非該当: 0.0%</p>
20.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設のサービスなどの考え方を知る機会(説明、掲示など)がありましたか	<p>100.0%</p> <p>はい: 100.0% どちらともいえない: 0.0% いいえ: 0.0% 無回答・非該当: 0.0%</p>
21.【過去1年以内に利用を開始したと答えた方に】施設の説明を聞いて、自分で施設を利用することを決めましたか	<p>66.7% 33.3%</p> <p>はい: 66.7% どちらともいえない: 33.3% いいえ: 0.0% 無回答・非該当: 0.0%</p>
22.あなたは不満や要望を職員に気軽に話すことができますか	<p>58.8% 23.5% 17.6%</p> <p>はい: 58.8% どちらともいえない: 23.5% いいえ: 17.6% 無回答・非該当: 0.0%</p>
23.職員は不満や要望に対してきちんと対応してくれていますか	<p>64.7% 23.5% 5.9% 5.9%</p> <p>はい: 64.7% どちらともいえない: 23.5% いいえ: 5.9% 無回答・非該当: 5.9%</p>

■ はい
 ■ どちらともいえない
 ■ いいえ
 ■ 無回答・非該当

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > リーダーシップと意思決定

リーダーシップと意思決定

講評

藍工房では非営利組織として、1983年の創設以来、いろいろな障害を持つ人たちとスタッフ・ボランティアが協力しあい、「働くことに生きがいを見出し生き生きとして創作活動を続けている」ということを念頭において活動してきた。日本の伝統工芸「ものづくり」の藍染、刺し子、織り、組み紐、陶芸など日常の活動を通し、手作りの独自の作風で作りました作品は海外での評価も高い。このような創作技術や意欲の向上を通して、それぞれオリジナリティ作品を製作・販売することで、社会参加と経済的自立を目指すことを理念・基本方針としている。

藍工房では職員が経営層と話し合う機会が多く、理事会や評議会等、重要な会議には、職員も出席することが以前よりの風習である。実際に利用者と接している職員が、施設の方針や、利用者の支援活動など利用者の各種の規定や様式に関しても話し合いで意見を反映させることができるという小規模事業所のメリットを生かした柔軟な運営が行われている。

[このページの一番上へ](#)

1-1-1. 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している

評点	A
標準項目	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	○ 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
A+の取り組み	

1-1-2. 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点	A
標準項目	○ 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている
	○ 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している
A+の取り組み	

1-1-3. 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点	A
標準項目	○ 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
	○ 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	○ 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 経営における社会的責任

経営における社会的責任

講評

藍工房には一般ボランティアをはじめとして、行政に関わる人にボランティア的に協力していただく風土ができている。ボランティアが守るべき規則としては諸規定を遵守することがうたわれている。技術的な指導に関しては、それぞれの個々の利用者に合わせ、実際に一緒に行うことにより共に成長することが伝統的に受け継がれている。ボランティアには利用者への理解やその他の留意事項を十分に伝え、理解を得た上で利用者サービスのサポートをお願いしており、製作・販売現場を支える戦力として欠かせない存在となっている。

地元の中学高校生の職場体験の場として藍工房の染め場を提供したり、実習生の受け入れについては、精神保健福祉士養成実習を実施している。実習生に関しては現行では年に1名程度であるが、受け入れ先の選択し、受け入れ人数の増加をする取り組みがなされようとしている。

広報誌「藍の風」を年4回作成し、利用者家族会・OB会・関連事業所に毎回100部ほど配布・送付している。また「藍カフェ&ギャラリー」や関連機関にも広報誌を配布し、情報開示に努めている。ホームページでは縫製などの有償ボランティアを募集している。また、藍工房の染めや織りなどの技術を地域住民を対象に有料にて普及する活動などを通して、地域にその専門性が開放されている。

[このページの一番上へ](#)

2-1-1. 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点	A	
標準項目	○	福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
A+の取り組み		

2-1-2. 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点	A	
標準項目	○	第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる
	○	透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している
A+の取り組み		

2-1-3. 将来を担う人材育成として、実習生を受け入れている

評点	A	
標準項目	○	実習生の受け入れに対する基本方針・取り組み体制を明確にしている
	○	効果的な実習ができるよう計画的なプログラムを用意している
A+の取り組み		

2-2-1. 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none">○ 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)○ 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
A+の取り組み	

2-2-2. ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none">○ ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している○ ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)○ ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
A+の取り組み	

2-2-3. 地域の関係機関との連携を図っている

評点	A
標準項目	<ul style="list-style-type: none">○ 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している○ 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

福祉サービス第三者評価情報 > 評価結果検索 > 評価結果一覧 > 評価結果詳細 > 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

講評

藍工房は施設内においてさまざまな障害をもつものが協力しあって作業をしている。どのような作業（作品制作）を行うかは、入所時以外にも利用者の自己評価を実施し、年1回のサポート会議を行うなど個別のニーズ等を把握するよう努めている。利用者間の苦情としてとらえるか、個々の不満（希望）として判断するか難しいという現状もあるが、苦情解決の実施規定の中に第三者委員の位置づけが明確にされており、体制は整えている。

世田谷区の大小7箇所の授産施設によって構成される世田谷区精神障害者通所授産施設連絡会や、世田谷地域での精神障害者関連事業所によるネットワークをはかる世田谷地区精神保健福祉ネットワーク等に参加し、行政や関連事業所などの外部からの情報収集がなされており、障害者自立支援法など福祉事業の動向の把握に役立っている。自立支援法制度が流動的な現在、情報の整理など努力はしているが、対策に至るまでには難しいということが現状である。新事業移行に当たって利用者の意向を知るためアンケートを実施するなどの更なる有効活用を期待したい。

このページの一番上へ

3-1-1. 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）

評点	A
標準項目	○ 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている
	○ 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-2. 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる
	○ 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している
	○ 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる
A+の取り組み	

3-1-3. 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している

評点	A
標準項目	○ 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる
	○ 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる
	○ 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している
A+の取り組み	

このページの一番上へ

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 計画の策定と着実な実行

計画の策定と着実な実行

講評

計画の策定にあたっては職員も参加する年4回の理事会や評議員会において、施設の事業計画の具体性が検討されている。中期・長期計画については平成21年を目安に利用者数増加を見込んでサービス提供能力を拡大する計画があるものの、障害者福祉制度そのもの先行きが見えない中で、具体的な方策や手順に関しては不透明なところがある。年間事業計画はカレンダー式の月間予定表で年間行事など内容が分かりやすく記述されている。また情報の提供として広報誌「藍の風」等に自立支援法に伴う制度移行についての説明、掲示がなされている。

喫煙については3階ベランダの喫煙所で携帯灰皿を必ず持参してもらうようにするなど火災予防、地震の際の家具の転倒防止などは市販の防災グッズを用いなど防災対策を行っている。現状の施設は、もともとはオフィスの2階、3階部分を改造し使用している。そのため3階は設置されている避難梯子を利用するよりも階段にて避難、2階部分では隣のビルへすみやかに移動するといった手順が年2回の避難訓練実施されており、利用者の安全対策に工夫がなされている。

施設外の環境で若林踏み切りに事故防止遮断機設置を電鉄会社に申請した。①利用者作業時の防音②利用者通所時の安全確保③藍工房のみならず地域全体の交通安全に視点をあてた取り組みを提案した。

[このページの一番上へ](#)

4-1-1. 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点	A
標準項目	○ 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している
	○ 年度単位の計画を策定している
	○ 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる
A+の取り組み	

4-1-2. 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点	B
標準項目	✕ 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている
	○ 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている
	○ 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
	○ 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している
A+の取り組み	

4-1-3. 着実な計画の実行に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	○ 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている
	○ 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している

	○ 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
A+の取り組み	

4-2-1. 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	○ 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	○ 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団
【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

全体の評価講評

事業評価結果

組織マネジメント分析
結果

サービス分析結果

利用者調査結果

事業者のコメント

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 職員と組織の能力向上

職員と組織の能力向上

講評

職員個人の業務や能力に応じた育成計画は、意向や意見が伝統的に口頭などで伝達されることが多いため、具体的に記録はされていない。自立支援法の導入により限られた補助金収入の枠の中で雇用条件はますます厳しくなっていかなざるを得ない。このような施設では意欲を持って取り組む人材が何より重要であるので、待遇改善を図らなければと考えるが、現状は厳しいと経営層は考えている。今後は経営管理を行なう管理者の育成が必要となってくるであろう。

職員研修について、施設内では、入社時に理念・方針に沿った新人研修が理事長よりなされる。職員の自主的な勉強会などを通して、職員間で意見や提案を取り入れ、そのつど確認をするといった組織風土が認められる。外部研修については、レポートは整理がなされており、各職員へ回覧をし、情報共有に勤めている。障害者自立支援法制度や、工芸に関する外部研修も勤務日程を調整して積極的に参加を促している。これらの研修を通して、今後は、今まで以上に職員が一体感をもった体制につながることを期待される。

賃金規定の中で基本給は能力、経験、技術及び作業内容などを勘案して各人ごとに決定するとされており、昇給については毎年4月に技能、勤務成績が良好な者について行われる、ただし法人の業績等の勘案で困難な場合昇給を行わないこともあると就業規則に規定されている。職員は、この賃金規定を承諾済みで入社しており、法人の収支など業績等も職員にその困難な状況が知らされている。このように現状の組織マネジメントは、しっかりとした人事評価制度によって運営されていない。

[このページの一番上へ](#)

5-1-1. 事業所にとって必要な人材構成にしている

評点	A
標準項目	○ 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している
	○ 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている
	○ 適材適所の人員配置に取り組んでいる
A+の取り組み	

5-1-2. 職員の質の向上に取り組んでいる

評点	B
標準項目	○ 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
	× 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している
	× 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている
	○ 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している
	○ 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している
A+の取り組み	

5-2-1. 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点	A
標準項目	○ 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
	○ 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる



職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる

A+の取り組み

5-2-2. 職員のやる気向上に取り組んでいる

評点	B	
標準項目	×	事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
	○	就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
	○	職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
	○	福利厚生制度の充実に取り組んでいる
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団

【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > [情報の保護・共有](#)

情報の保護・共有

講評

経理、授産会計、人事情報など経営情報はパソコンで管理されているが、情報・データなどに関するアクセス権限は規定されていない。利用者の個人情報紙ベースで保管されている場合が多く、必要な情報は必要ないときに活用できるようなにはなっている。しかし、保管場所や方法は、広さや位置関係からやもうえないこともあるが情報管理に不安がある。個人情報保護の観点からみれば、整備をしていくことが望まれる。

職員やボランティア等も含め、入社時に、個人情報の保護についての説明を文章にて周知させている。また、毎朝の工房ミーティングや月1回のケース会議での意見交換でも利用者前をださずイニシャルで、名前が漏れないような配慮がなされている。今回の第三者評価の利用者アンケートでも、「職員は他の人に知られたくない秘密を守るなど、プライバシーを守ってくれる」と答えている。ただ、個人情報保護規程の作成に関しては未着手である。情報開示の対応も含め、その必要性については経営層も含め、認識しており、速やかな対応を検討している。

[このページの一番上へ](#)

7-1-1. 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点	B
標準項目	✕ 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	○ 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	○ 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
A+の取り組み	

7-1-2. 個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点	B
標準項目	✕ 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している
	✕ 個人情報の保護に関する規定を明示している
	✕ 開示請求に対する対応方法を明示している
	○ 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > [カテゴリ1～7に関する活動成果](#)

カテゴリ1～7に関する活動成果

講評

障害者自立支援法の流動的な制度の流れの中で、限られた現在の施設環境において、利用者（登録者）を22名から30名に増加し、サービス提供能力を拡大するといった中・長期構想を練っている。その実現のために、就労時間内に行われていたメンバーミーティングの時間をずらし、実質の作業時間を長くした。また作業場所、時間の効率化や段取りが見直され、作業工程が改善された。これらの活動を通して、メンバーの意識改革にもつながってきている。

売上のアップを目指すため、品質の向上と売れ筋製品の安定的供給と受注製品の製作など、メンバーの意識改革を行い、作業記録の開示、作業目標の設定などの支援に取組んで工賃のアップを目指し成果を挙げつつある。また広報誌「藍の風」で、「障害者自立支援法」についての情報を詳細に提供し、利用者が精神保健福祉を取り巻く環境の変化に対応でき、不安を解消するため、職員が個々の相談に応じたり、アドバイスしている。

世田谷区の大小7箇所の授産施設によって構成される授産施設連絡協議会や、世田谷地域での精神障害者関連事業所によるネットワークをはかる世田谷地区精神障害者支援ネットワーク等に参加し、行政や関連事業所などの外部からの情報収集がなされており、障害者自立支援法など福祉事業の動向の把握を行っている。しかし、自立支援法制度が流動的な現在、情報の整理など努力はしているが、対策に至るまでには難しいということが現状である。

[このページの一番上へ](#)

8-1-1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ1：「リーダーシップと意思決定」
- ・カテゴリ2：「経営における社会的責任」
- ・カテゴリ4：「計画の策定と着実な実行」

評点	A
改善の成果	障害者自立支援法の流動的な制度の流れの中で、限られた現在の施設環境において、利用者（登録者）を22名から30名に増加し、サービス提供能力を拡大するといった中・長期構想を練っている。その実現のために、就労時間内に行われていたメンバーミーティングの時間をずらし、実質の作業時間を長くした。また作業内容も「染」を行っている間に、染め上がった作品の後処理をするといった、場所や時間の効率化や段取りが見直された。これらの活動を通して、メンバーの意識改革にもつながってきている。

[このページの一番上へ](#)

8-2-1. 前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリ5：「職員と組織の能力向上」

評点	B
改善の成果	世田谷区の大小7箇所の授産施設によって構成される世田谷区精神障害者通所授産施設連絡会や、世田谷地域での精神障害者関連事業所によるネットワークをはかる世田谷地区精神保健福祉ネットワーク等に参加し、行政や関連事業所などの外部からの情報収集がなされており、障害者自立支援法など福祉事業の動向の把握を行っている。しかし、自立支援法制度が流動的な現在、情報の整理など努力はしているが、対策に至るまでには難しいということが現状である。

8-3-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている

- ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
- ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

評点	A
改善の成果	売上のアップを目指すため、品質の向上と売れ筋製品の安定的供給と受注製品の製作など、メンバーの意識改革を行い、作業記録の開示、作業目標の設定などの支援に取組んで工賃のアップを目指し成果を挙げつつある。 広報誌「藍の風」で、「障害者自立支援法」についての情報を詳細に提供し、利用者が精神保健福祉を取り巻く環境の変化に対応でき、不安を解消するため、職員が個々の相談に応じたり、アドバイスしている。

[このページの一番上へ](#)

8-4-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、財務諸表など財務に関する指標において改善傾向を示している

評点	A
改善の成果	授産事業については、17年度予算305万円に対して、376万円の決算を得ることができた。利用者への工賃(作品支出)も205万円となった。しかし、福祉事業収入は17年度予算2530万円に対して、決算2412万円と95%に減少している。これは交通費・昼食費補助が前年度実績の10%減となったためである。

[このページの一番上へ](#)

8-5-1. 前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分や利用者満足状況調査などにおいて改善傾向を示している

- ・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境の把握と活用」

評点	B
改善の成果	障害者自立支援法に関わっての情報収集を外部研修や勉強会にて行い、前年度同様、藍の風などに情報を提供できる機会をつくったが、特に前年度にくらべ行ったことはない。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービス情報の提供

サービス情報の提供

講評

藍工房の情報はホームページ、パンフレット、広報誌「藍の風」などにより入手することができる。藍工房は1983年に創立され、1985年にはニューヨークのカーネギーホールの舞台衣装を作成するなど海外でもその作品の評価が高い、藍染め、刺し子、織り、陶芸を製作する工房である。これらの実績からこの方面に関心のある利用者には有名な工房であって、現在の待機者は10数名で順番待ちとなっている。入所者（登録者）は22名（定員19名）である。退所者が年間2名程度であり、希望してもなかなか入所できないのが現状である。

世田谷区の「障害者支援情報センター」の作業所見学ツアーが月に1回実施されていて、藍工房にもその見学者が訪れる。また、この工房の活動がメディアにも取り上げられ何度か報道されているので、当事者、その家族、福祉関係者、教育関係者、行政関係者、海外の視察者なども訪れ、見学者や訪問者が多いのがこの工房の特徴である。

見学に際しては開所日、作業内容、一日のスケジュールなど工房の概要が説明される。また作品を何点か使用して具体的な製作技術などの説明も行われている。入所条件は都内に在住し、通院医療を継続していること、担当保健師がいることなどである。藍工房では試験的に作業を体験してみる仮入所の制度があって、入所を希望する場合は担当の保健師と同行して来所し、その上で入所希望をして初めて仮入所待ちに登録されることになっている。

[このページの一番上へ](#)

1-1. 利用者等に対してサービスの情報を提供している

評点	A
標準項目	<input type="radio"/> 利用者が入手できる媒体で、利用者に事業所の情報を提供している
	<input type="radio"/> 利用者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	<input type="radio"/> 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	<input type="radio"/> 利用者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)
[評点の見方](#)
[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの開始・終了時の対応

サービスの開始・終了時の対応

講評

仮入所の登録後、入所の空きができる、登録順に保健師を通じて仮入所の意思の確認が行われる。このとき作業がきちんと出来る人、週何日かの通所ができる人、ものづくりが好きな人、皆と一緒に作業できるように、ある程度協調性のある人というのが仮入所の条件となる。そして、週の通所回数、曜日、作業内容などを確認して、仮入所申込み書を提出し、試験的に通所することとなる。この仮入所では藍染めをやってみたが、上手いかわからないので刺し子ではどうか、色々体験してみることができる。

仮入所は通常1～6ヶ月程度の作業を実施して、週2回以上の通所が可能になると、この工房に慣れて作業ができるかどうかの確認を行う。そして入所会議が開催され通所が可能と判断されると作業内容と保健師をはじめ本人を取り巻く関係者の支援の確認を行って、利用契約書を締結し通所開始となる。工房の利用料は無料である。重要事項説明書では記述がないが、工房という特殊性から1～6ヶ月程度の仮入所という実地体験を通して、藍工房の作業内容が好きで、他のメンバーとも適応して通所できるかを互いに判断することとなっている。

本人の事情等により退所となったとき、本人の希望により藍工房のOBとして登録ができるようになっている。OB利用の目的は退所後、次の生活に馴染めなくて少しの間でも藍工房を利用したいとき、たまには染め・刺し子などの作品を作りたいとき、時々でいいから節目の行事に参加して皆の顔が見たいなど気軽に立ち寄って利用者や職員と交流をはかる利用の仕方である。しかし材料費は自己負担すること。自分の作品を工房の作品として販売することは出来ないなどの制約がある。現在7名のOBが登録されている。

[このページの一番上へ](#)

2-1. サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている

評点	A
標準項目	○ サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している
	○ サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている
	○ サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

2-2. サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している

評点	A
標準項目	○ サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	○ 利用開始直後には、利用者の不安やストレスを軽減するよう配慮している
	○ サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	○ サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > [個別状況に応じた計画策定・記録](#)

個別状況に応じた計画策定・記録

講評

入所時には入所申込書、入所時のサマリー、保健師の紹介状、主治医の利用希望紹介書などの書類を整えているがフェイスシートなどとして、法人として統一された様式は作成されていない。仮入所期間中の支援・評価記録であるサポート会議記録票でアセスメントが行われている。本入所後のアセスメントも個人別の作業・生活記録を基にサポート会議を開き作業支援を中心とし対人関係や健康管理等のアセスメントを行なっている。しかし、これらの作業支援のマニュアルやアセスメントについての手続きを定めたものは作られていない。

工房内における人間関係や生活支援などについては社会復帰指導員の個別相談援助となっていて、個々のケース記録としてまとめられているが、相談援助に関するマニュアルなどは作成されていない。年1回、利用者は自己評価を行い活動の振り返りを行う。これを基に利用者と指導員のサポート会議で目標の確認と支援課題の明確化をはかっているが、各自が作者として工芸品を製作するという特徴により、一貫した作業工程マニュアルを作り、具体的に記録することは難しい面がある。

作業所が藍染め、刺し子、織物、陶芸など作業が分散し、また担当の作業指導員も作業によってそれぞれ異なるため、社会復帰指導員と作業指導員が協同し利用者の情報を共有し、支援し見守る体制が確立されている。更に当工房には知的障害者が参加する障害部も同居して同様の作業を一緒に行っているため、これらの情報の交換と共有は欠かせないものとなっており、合同の打ち合わせ会を毎朝実施して情報の共有化を図っている。

[このページの一番上へ](#)

3-1. 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点	B
標準項目	✕ 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している
	○ 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
	○ アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-2. 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

評点	A
標準項目	○ 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている
	○ 計画を利用者にわかりやすく説明し、同意を得ている
	○ 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている
	○ 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-3. 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点	B
標準項目	○ 利用者一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある
	× 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

3-4. 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点	A+
標準項目	○ 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している
	○ 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している
A+の取り組み	・作業所が藍染め、刺し子、織物、組み紐、陶芸など作業が分散し、また担当の作業指導員も作業によってそれぞれ異なるため、社会復帰指導員と作業指導員が協同し利用者の情報を共有し、支援し見守る体制が確立されている。更に当工房には知的障害者が参加する障害部も同居して同様の作業を一緒に行っているため、これらの情報の交換と共有は欠かせないものとなっており、合同の打ち合わせ会を毎朝実施して情報の共有化を図っている。

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

講評

利用者のプライバシーの保護については、就業規則、職員の心得などに規定されている。しかし、利用者の個々の人間関係などについての悩み事は多く、社会復帰指導員と相談することが多い。このときの相談室が無い場合個人のプライバシーをどう保持するかが問題となっている。工房内は作業用のスペースなどで手一杯で相談室を設ける余裕が無いのが現状である。作業後や作業が休みの日などには、その作業所内の空いた場所などで対応しているが、利用者のプライバシーが守られているには限界がある。

工房は利用者が自主的に自由に工芸品を創作するのが原則であるが最近は販路も広がり受注製作も多くなっている。このため製品の品質向上や納期などお互いが協力して作業することも必要となってきた。また、藍染めなどを縫製する仕事を有償ボランティアが行っていて、このため常勤職員は毎朝ミーティングを実施して、メンバー・スタッフ・有償ボランティアが協力し合い一体感をもって製作活動が行えるよう調整している。尚、自傷他害などの傾向がある利用者は工房での作業が困難であるため、藍工房では受け入れていない。

[このページの一番上へ](#)

5-1. 利用者のプライバシー保護を徹底している

評点	B
標準項目	<input type="radio"/> 利用者について他機関へ照会する際、利用者の承諾を得るようにしている
	<input checked="" type="radio"/> 日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5-2. サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している

評点	A
標準項目	<input type="radio"/> 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)
	<input type="radio"/> 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している
	<input type="radio"/> 虐待被害にあった利用者がある場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている
	<input type="radio"/> 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)

[サービス分析結果](#)

[利用者調査結果](#)

[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > 事業所業務の標準化

事業所業務の標準化

講評

藍工房の伝統工芸品の製作は伝承された「ものづくり」の技術指導の下、手作りで、基本的には各自マイペースで自由に創作し、独自の優れた作風を醸しだしていくものとされている。したがってマニュアルは作成されていない。これらの伝統工芸品の製作・販売を通じて障害者自身が自分の意志と力で社会と交わることを学び、経済的な自立を目指すことが活動の主幹とされている。尚、作業以外の工房内の相談支援などについては個々の問題毎に対応し、特に援助技術などのマニュアルは作成されていない。

バザー、作品の展覧会、講演会、チャリティコンサートなどの催事は多い。このため、これらの催事開催の手引書としてマニュアルが作成されている。例えばチャリティコンサートの手引書では担当者の決定、資金の準備、後援者の名義使用申請、場所の使用申請書など準備の手続きを詳細にマニュアル化されている。これらの規模の大きいイベントは重要なマニュアルとして具体的に作成され、また開催後にはイベントの記録を検討し問題点を抽出してマニュアルを改訂している。

職員の研修では公的精神保健機関における精神障害者の援助技術や家族支援の研修、その他の精神保健に関する研修、全国的な作業所連絡会が主催する障害者自立支援法の研修、精神障害者の家族会の全国組織が開催する精神障害者支援活動の研修など必要に応じ職員の研修が実施され、また作業指導員には京都の藍染めの研修などを実施し、指導員の知識や技術の向上を図っている。

[このページの一番上へ](#)

6-1. 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点	B
標準項目	✕ 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
	✕ 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている
	○ 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している
	○ 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-2. サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点	B
標準項目	✕ 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
	○ 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている
	○ 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6-3. さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点	A
標準項目	<input type="radio"/> 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている
	<input type="radio"/> 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している
	<input type="radio"/> 職員全員が、利用者の安全性に配慮した支援ができるようにしている
	<input type="radio"/> 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している
	<input type="radio"/> 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

[福ナビトップへ](#) | [サイトマップ](#) | [メルマガ登録](#) | [ご意見・ご要望](#) | [特集](#) | [アクセシビリティについて](#)

Copyright©2008 (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団

【問合せ】メールアドレス: fukushiit@fukushizaidan.jp 電話: 03-5206-8733

評価結果ダイジェスト

評価結果詳細

[全体の評価講評](#)

事業評価結果

[組織マネジメント分析結果](#)
[サービス分析結果](#)
[利用者調査結果](#)
[事業者のコメント](#)

評点の見方

[福祉サービス第三者評価情報](#) > [評価結果検索](#) > [評価結果一覧](#) > [評価結果詳細](#) > サービスの実施

サービスの実施

1. 個別の支援計画などに基づいて地域生活支援を行っている

講評

藍工房は日本伝統工芸の技術を習得し、受注製品の製作や利用者自身のそれぞれのオリジナル作品を製作販売をするため、本人の能力や技術に応じた支援や指導が必要とされている。したがって、本人が個人毎の作業計画を立て、これが個別の支援計画となっていて作業指導員が指導・支援にあたっている。最近では売上のアップを目指すため、品質の向上と売れ筋製品の安定的供給と受注製品の製作など、メンバーの意識改革を行い、作業記録の開示、作業目標の設定などの支援に取組んで工賃のアップを目指し成果を挙げつつある。

社会福祉法人藍は公益事業として精神障害者共同作業訓練事業として「藍カフェ&ギャラリー」を運営し、回復途上にある在宅者であって、長期的訓練が必要な人を対象に生活指導や作業訓練等の社会適応訓練を行っている。また、別途、NPO法人藍工房ハウスを持ち精神障害者のグループホームを運営している。現在は藍工房通所者の1名がこのグループホームを利用している。その他、精神障害者イブニングケア事業も毎週金・土曜日実施して夕方の居場所や交流の場の提供し、職員が随時相談にも応じている。

広報誌「藍の風」はグループ全体の情報を提供しているが、最近では特に「障害者自立支援法」についての情報を詳細に提供し、精神保健福祉を取り巻く環境の変化に対応できるよう、利用者の不安を解消するため、職員が個々の相談に応じ、またアドバイスしている。

評点	A ⁺	
標準項目		個別の支援計画に基づいて支援を行っている
		利用者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
		自立生活に必要なさまざまな情報を提供している
		必要に応じて対人関係のアドバイス等を行っている
A+の取り組み	・藍工房は公益事業として精神障害者共同作業訓練事業として「藍カフェ&ギャラリー」を運営し、回復途上にある在宅者であって、長期的訓練が必要な人を対象に生活指導や作業訓練等の社会適応訓練を行っている。また、別途、NPO法人藍工房ハウスは精神障害者のグループホームを運営しており、現在は藍工房通所者の1名がこのグループホームを利用している。その他、精神障害者イブニングケア事業も実施して夕方の居場所や交流の場の提供、月曜から木曜は夕食を提供し、職員が随時相談にも応じるなどグループ全体で地域生活支援を実施している。	

[このページの一番上へ](#)

2. 個別の支援計画に基づいて日中活動等に関するさまざまな支援を行っている

講評

藍工房は藍染めなどを製作して販売している。その製品は伝統工芸品として質の高いもの、消費者のニーズに応えられるものを目指している。このため利用者の制作意欲を大切に「ものづくり」の場であることを基本的に、利用者に工賃を還元できることを活動の中心に据えている。この活動の中で、お互いを理解し、能力を開発し、自律性・社会性を養い、自分の意志と力で社会と交わることを学び、「藍染め、刺し子、組み紐、織り、陶芸」を中心にオリジナルの製品が作られるよう支援している。

利用者の作成した製品が販売できるとその売上の中から、原則材料費など30%を差し引き70%を工賃として還元している。この製品は利用者別に管理され、自分の製品が売れて初めて工賃が得られる仕組みとなっている。販売促進のために販売委託先が10数件、バザーの開催が年18回に及び、地域のお祭りや展示会に

出品し、利用者自ら販売に参加し自分の作品が評価されて購入される喜びを味わって、さらに良い製品を製作する意欲を高めている。

工房における作業の他に誕生会、クリスマス会、新年会、一泊旅行などのレクリエーションを利用者自身が企画して実施している。また水彩、コーラス、料理教室、茶道、生け花などの教養の時間を設け、ときにはスタッフとカラオケに行くなど生活の幅を広げるプログラムを用意している。またスタッフも顧問医師による精神保健の勉強会に参加し、利用者の日常生活の問題を本人と一緒に考え解決を図るよう努め、働く意欲を盛り立てる努力をしている。

評点	A+	
標準項目	○	利用者が活動しやすい環境を整えている
	○	利用者一人ひとりのニーズに応じたその人らしさが発揮できる活動を用意している
	○	工賃は利用者との合意に基づいて支給している
	○	利用者の働く意欲を盛り立てる取り組みを行っている
A+の取り組み	<p>・藍工房は利用者の作品を世界に発表する機会を作っている。それは1985年の米国有名音楽ホールでの舞台衣装製作に始まり、全米5ヶ所で展示会開催された。その後パリやロンドンでの藍工房展、1988年にはアイコウボウアメリカを設立し障害者が海外で生活体験できる機会を設けた。また、NPO藍工房では「藍工房のすてきな仲間たち世界展」を企画し、2004年の地元の美術館での展示会から始まり、パリ、ロンドン、2005年にはトルコ、昨年オーストラリアで開催され、世界に向けて藍工房の作品を発信している例は類をみないものである。</p>	

[このページの一番上へ](#)

3. おいしい食事を楽しく食べられるよう工夫している

講 評

食事の提供は週3回、月、水、金の昼食を希望者に1食130円(世田谷区の補助270円)で希望者に提供されている。日により個人で自分の好みの昼食をとる人も若干いるが、個人で昼食をとる場合にはこの区の補助は受けられない。この昼食は賄い担当の職員が請負で行うものであるが、衛生と安全に注意を払って、栄養と嗜好を考えて提供している。大半の利用者が利用していて、配膳を手伝いながら「今日もおいしそうだ!」と好評である。

食事の提供に係る衛生管理については、従事者等の衛生管理点検表、調理施設の点検表があり、毎日の点検、1ヶ月ごとの点検、3ヶ月後との点検と点検項目を決めて実施されている。その他、調理等における点検、調理器具等及び使用水の点検表などがあり、調理時の中心温度も確認してチェックされる等、衛生には特に気が配られている。

評点	A	
標準項目	○	栄養のバランスがとれた食事が摂取できるよう助言している
	○	食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている
A+の取り組み		

[このページの一番上へ](#)

4. 利用者の健康を維持するための支援を行っている

講 評

利用者の健康管理については原則として自己管理であるが、年1回の健康診断実施している。この健康診断に参加できないときは自分で健康診断を受けることになっている。藍工房では通院医療を継続していること、服薬管理についても自己管理できることが入所の条件となっている。

顧問医が置かれていて、2ヶ月に1回スタッフの勉強会が実施されている。この勉強会にはメンバーや家族も

参加できる機会も提供されています。したがって、職員は利用者の体調変化に対応できる基礎知識は持ち合わせている。緊急時には主治医や保健師に連絡して対応できるようにし、これらの連絡が取れないときはクリニックを開業している顧問医に相談し、緊急の指示を受けることができる体制を整えている。

評点	A
標準項目	<input type="radio"/> 利用者が健康の自己管理ができるよう病気や治療の理解を深めるための支援をしている
	<input type="radio"/> 必要に応じて、通院等に対する助言や支援を行っている
	<input type="radio"/> 利用者が自己服薬管理できるよう助言や支援を行っている
	<input type="radio"/> 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

5. 利用者の自主性を尊重し、日常生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている

講 評

工房における作業の他に誕生会、クリスマス会、新年会、餅つき大会、お花見などの季節の行事や食事会、一泊旅行などのレクリエーションを利用者自身が企画して実施している。また水彩、コーラス、料理教室、茶道、生け花などの教養の時間を設け、ときにはスタッフとカラオケに行くなど生活の幅を広げるプログラムを用意している。

作業場は開放的であるがスペースが十分でなく、決して作業に十分な環境とは言えない。また織りの作業場が離れている場所にあり、不便で効率がわるい。建物の出口は歩道に直接面していて、注意して出ないと走ってくる自転車にぶつかる恐れがある。環状7号に面し、世田谷線と交差するところで、近隣は交通事故等の危険が多い場所で利用者にとって十分注意を要するところである。また工房は建物の2階と3階にあり、この階段が狭くて急で、万一のときの緊急避難には転倒などの危険が伴うおそれもある。

メンバーによるミーティングが毎月1回開催され、日直当番や喫煙の決まりなど工房における決まりごとやレクリエーションの企画・実施・運営などについて利用者自身が自主的に決め実施している。

評点	B
標準項目	<input type="radio"/> 日常のプログラムは、利用者の特性や嗜好を考慮し、多様な体験ができるようにしている
	<input checked="" type="radio"/> 室内は、採光、換気、清潔性など居心地のよい環境となるようにしている
	<input type="radio"/> 日常の生活に関するきまりごとについては、利用者等の意見を参考に見直しをしている
	<input type="radio"/> 利用者同士が意見を言う機会があり、その意見等を施設運営に反映できるようなくみを整えている
	<input type="radio"/> 行事やイベントの企画・準備は利用者も参加して行っている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

6. 施設と家族等との交流・連携を図っている

講 評

精神障害者の利用者は基本的に一人の成人であり、利用契約も本人とされる。藍工房の現在の利用者の平均年齢は50歳であり、家族との関係を絶っている利用者、家族が高齢で連絡を取るべき家族がいないという利用者も多い。しかし、家族の支援があつて社会復帰が円滑に進む事例も多い。当施設ではサポート会議に可能な限り家族が出席してもらえるように努力を図っていて、このサポート会議にはメンバーの1/3程度の家族が出席して利用者の活動を見守っている。

藍工房では季刊の「藍の風」や月刊の「精神部の便り」を発行して、工房に状況や利用者の状況を家族などに知らせている。家族会はほぼ隔月に開催している。また、藍工房の活動が益々充実し発展することを願う後援会として藍工房ファミリーを結成している。個人正会員5,000円賛助会員3,000円、団体正会員30,000円賛助会員10,000円の会費で資金的にもバックアップし、これらの会費で「藍の風」を発刊している。このファミリー会員は現在約70人に達している。

評点	A
標準項目	○ 家族等との交流・連携に際して、利用者本人の意思を確認し、その意向に基づいた対応をしている
	○ 利用者一人ひとりの状況を家族等へ知らせる手段を整えている
	○ 必要に応じて、家族等への情報提供や支援をしている
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)

7. 地域との連携のもとに利用者の生活の幅を広げるための取り組みを行っている

講 評

世田谷区は伝統的に福祉の地域ネットワークの活動が活発で地域精神保健福祉活動推進連絡会のもと5箇所のネットワークがある。玉川地区精神保健福祉ネットワークや共同作業所連絡会などの機能を統合し「障害者支援情報センター」という団体を立ち上げ、就労援助や作業の仲介、情報提供に関する事業を行っていて、藍工房の利用者もこのネットを共有している。また文化祭、区民ふれあいフェスタ、いきいき文化祭りなど多彩な催事が行われているので、これらの機会を利用して藍工房のパザーが開かれ利用者も自らの作品の販売に参加している。

評点	A
標準項目	○ 地域の情報を収集し、利用者の状況に応じて提供している
	○ 必要に応じて、利用者が地域の資源を利用し、多様な体験ができるよう支援している
A+の取り組み	

[このページの一番上へ](#)